

2021年4月13日

近鉄不動産株式会社

あべのハルカス美術館 展覧会
**「tupera tuperaのかおてん.」、
 「コレクター福富太郎の眼」、
 「イスラエル博物館所蔵 印象派・光の系譜」開催決定！**

日本一高いビル「あべのハルカス」16階の「あべのハルカス美術館」では、日本美術や西洋美術、現代アートなど多彩な展覧会を開催しています。

2021年度は4月より「生誕160年記念 グランマ・モーゼス展—素敵な100年人生」、7月より「ポーラ美術館コレクション展 モネ、ルノワールからピカソ、シャガールまで」の開催を予定しております。（既報のとおり。詳細は別紙参照）上記2本の展覧会に続き、新たに2021年度後半に開催する展覧会が決定しましたのでお知らせします。

「tupera tuperaのかおてん.」

tupera tupera といっしょに顔をあそびつくそう！

会 期：2021年9月17日（金）～2021年11月7日（日）

共 催：読売テレビ、東映、ローソンチケット

開催趣旨：亀山達矢と中川敦子によるクリエイティブ・ユニットtupera tupera（ツペラ ツペラ）は2002年に活動を開始して以来、絵本を中心に幅広い分野で活躍してきました。本展では彼らのアイディアとユーモアの源泉である「顔」をテーマに、人気の絵本原画から映像、大型立体作品まで、さまざまな作品を展示します。めくるめく楽しい「かお」だらけの世界へようこそ！



①tupera tupera 《かおカオス》
 2020年 作家蔵
 撮影：吉次史成
 ©tupera tupera



②tupera tupera 《床田愉男》
 2020年 作家蔵
 撮影：阿部高之
 ©tupera tupera

「コレクター福富太郎の眼」

名実業家が愛した珠玉のコレクション

会 期 : 2021年11月20日(土)~2022年1月16日(日)

共 催 : 関西テレビ放送、読売新聞社

開 催 趣 旨 : 高度成長期を生き生きと駆け抜けた実業家福富太郎(1931~2018)は、近代日本絵画の屈指のコレクターでもありました。本展は、作品を追い求めた福富太郎の眼に焦点をあて、鏑木清方や北野恒富に代表される東西画家の美人画をはじめ、時代を映す黎明期の洋画から戦争画に至るまで、その類まれなるコレクションの魅力を約80点の作品をとおしてご紹介します。



③北野恒富《道行》
1913年頃 福富太郎コレクション資料室蔵



④岡田三郎助《ダイヤモンドの女》
1908年 福富太郎コレクション資料室蔵

「イスラエル博物館所蔵 印象派・光の系譜」

モネ、ルノワール、ゴッホ、ゴーガン — 初来日作品、続々！

会 期 : 2022年1月28日(金)~2022年4月3日(日)
共 催 : イスラエル博物館(エルサレム)、産経新聞社、関西テレビ放送
開 催 趣 旨 : 50万点にのぼる膨大な文化財を所蔵し、豊かな印象派コレクションでも知られるエルサレムのイスラエル博物館。本展では、同館所蔵の印象派の名作が初めてまとまって来日します。モネの自信作とされる《睡蓮の池》をはじめ、バルビゾン派からナビ派までの流れの中で、外光から内なる光へと向かった画家たちの「光の系譜」をたどります。




⑤クロード・モネ《睡蓮の池》

1907年 イスラエル博物館蔵

Claude Monet *Pond with Water lilies*, 1907

Photo ©The Israel Museum, Jerusalem

 the israel museum, jerusalem

～ あべのハルカス美術館 2021年4月～2022年4月 展覧会ラインアップ ～

	2021年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月
展覧会名	生誕160年記念 グランマ・モーゼス展 素敵な100年人生			ポーラ美術館コレクション展 モネ、ルノワールからピカソ、シャガールまで			tupera tuperaのかおてん		コレクター福富太郎の眼		イスラエル博物館所蔵 印象派・光の系譜		
会期	2021年4月17日(土) ～ 6月27日(日)			7月9日(金) ～ 9月5日(日)			9月17日(金) ～ 11月7日(日)		11月20日(土) ～ 2022年1月16日(日)		1月28日(金) ～ 4月3日(日)		

【詳細】

I. 生誕160年記念「グランマ・モーゼス展—素敵な100年人生」

会 期：2021年4月17日(土)～2021年6月27日(日)

共 催：朝日新聞社、MBS、東映

開 催 趣 旨：アメリカ東部の農家の主婦だったグランマ・モーゼスことアンナ・メアリー・ロバートソン・モーゼス(1860-1961)は、70代になり本格的に絵を描き始めます。身近な田園風景や日々の暮らしを素朴な筆致で描き、101歳で亡くなるまで国民的画家として愛され続けました。日本で16年ぶりの回顧展となる本展は、「人生100年時代」を豊かに生きるためのヒントにもなり得ることでしょう。



アンナ・メアリー・ロバートソン・“グランマ”・モーゼス
《アップル・バター作り》1947年
個人蔵 (セント・エティエンヌ・ギャラリー、ニューヨーク寄託)
©2021, Grandma Moses Properties Co., NY



アンナ・メアリー・ロバートソン・“グランマ”・モーゼス
《村の結婚式》1951年
ベニントン美術館蔵
©2021, Grandma Moses Properties Co., NY

II. ポーラ美術館コレクション展 モネ、ルノワールからピカソ、シャガールまで

会 期：2021年7月9日（金）～2021年9月5日（日）

共 催：MBS、毎日新聞社、公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館

開 催 趣 旨：2002年9月、箱根・仙石原に開館したポーラ美術館のコレクションは、西洋絵画、日本の洋画、日本画、版画、彫刻、東洋陶磁、日本の近現代陶芸、ガラス工芸、化粧道具など多岐にわたり、総数は約1万点におよびます。本展はポーラ美術館の珠玉の西洋絵画コレクションから精選した74点の絵画に化粧道具を加え、総数86件の作品をご紹介します。



フィンセント・ファン・ゴッホ
《ヴィゲラ運河にかかるグレイズ橋》1888年



ピエール・オーギュスト・ルノワール
《レースの帽子の少女》1891年

【アクセス】

【開館時間】

火～金： 10:00 - 20:00
月土日祝： 10:00 - 18:00
*入館は閉館30分前まで

【休館日】

一部の月曜日、年末年始
展示替え期間(不定期)
*展覧会により休館日は異なります。

【所在地】

〒545-6016
大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス16階

【最寄駅】

近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅 直上
JR各線「天王寺」駅
地下鉄御堂筋線「天王寺」駅
地下鉄谷町線「天王寺」駅
阪堺上町線「天王寺駅前」駅 よりすぐ



以上